三年間をふりかえって

佐藤　睦子
（茅ケ崎市立萩園中学校）

生徒指導力高度化コースへの進学、そこでの学び

大学在学時に中学生と関わる活動をしていたが、そこで出会う中学生は、成績優秀な生徒や、学習に対して前向きな生徒であった。私の中学時代を振り返っても、私はそれなりの成績をおさめ、周囲からも存在を認められていた。

しかし、大学四年次に教育実習で訪れた中学校で、私は忘れられない生徒に出会う。その生徒は授業中、教師から指導を受けたことに腹を立て、学級の中で教科書を突如破り、教室を飛び出してしまった。私が育ってきた環境の中では、そのように振る舞う中学生を見たことがなく、私には衝撃的な出来事であった。私はそのとき、教師としてどのような対応をとるべきなのかと考えるだけでなく、彼の気持ちの奥底には何があるのだろうかと考えるようになった。そこで生徒指導力高度化コースへの進学を決めた。数ヶ月にわたる教育実習や、生徒指導を行っていく上で関係する諸機関へのフィールドワークなどは、大変貴重な経験だった。教職の多くの側面を学び、深めることができ、教職に就く心構えを身につけた。また、教職大学院での学びに加え、当時学外で参加していた、非行少年の立ち直り支援のボランティア活動からも大きな学びがあった。

赴任校での経験

三年前、採用試験に合格して、「生徒指導力高度化コースで学んだことを活かせるような学校で働きたい」と、私は熱い気持ちに燃えていた。それからまもなく丸三年が経とうとしている。私は教師として成長できたのだろうか。

一年目、「『ウザい、キモい、死ね』は一日百回言われると思いなさい。そういう言葉でしか感情を表現できない子どもたちだから、その言葉を真に受けないように。その言葉の裏にある気持ちを察してあげなさい」と当時の管理職に言われた。まさか、と思っていたが、やはり言われた。言われ続けた。宣告されていたとは言え、当時の私には大変応えた。生徒の中には、自分の苛立ちや困り感を言語化できず、そのような他を寄せつけないとがった言葉しか言えない子がいた。しかしその都度、その言葉に対する不快感を伝え、やめるように言い続けた。すると、一年が終わる頃にはほとんど聞くことはなくなった。

この年、学年にはいくつものいじめがあった。からかい、言葉による中傷、石や消しゴムを投げつける行為など、許してはいけないことが多くあった。学年職員が情報を共有し、対応を考えた。職員だけではなく、ときには保護者の方に来校していただいて生徒を指導したこともあった。あの時いじめる側、いじめられる側にわかれていた生徒が、現在は仲良く話している場面を見ると、あのときの指導が少し

は意味のあったものだと感じることができる。

三年間で知った大切なこと

一つ目は、チームワークである。私の職場は人間関係が良好だ。私はこの職場しか知らないが、異動してきた先生方がそう言うのだから間違いない。生徒も人であるように、教師も人である。辛いときには愚痴を言い、嬉しいときには笑い合い、そんなことができる関係があるからこそ、困難な状況にも立ち向かうことができるのである。大学院での学びの中でも、協働性が大切であり、悩みや問題を共有し、共に立ち向かえる集団でないと学校は前に進んでいけないことを教わったが、そのことを実感した。一人で抱え込まずに、悩みを共有しながらこれからも職務に励んでいきたいと思う。

二つ目は、家庭との連携である。家庭や保護者の力は大きい。そのことを痛感する毎日である。どれだけ学校で指導をしても、保護者の方との足並みがそろっていないと指導は生徒の心には落ちていかない。煙たがられてしまうかもしれないが、報告・連絡を欠かさずに、時にはよいことの報告も交えながら保護者との関係を作っていかなければならない。

三つ目は、受容する気持ちである。本当に色々な生徒がいる。それぞれの生徒の短所を否定的に捉えるのではなく、その短所を受け容れ、改善に向けて一緒に取り組んでいく姿勢である。短所が見えると長所に目が向かなくなることがしばしばあるが、そこを見落とさない努力も必要だ。

四つ目は、折れない心である。「夜明けは必ず来る」と何度先輩方に言われたことだろうか。辛くて投げ出したくなることもあるが、諦めてしまえば、そこで何もかもが終わってしまう。「雨垂れ石を穿つ」ということわざの如く、心の芯をぶらさずに生徒と向き合っていくことは、この仕事をしていく上で欠かせない。根気強く指導をし続けることの意味も学んだ。

私は、「人が大きく変わる成長期の三年間に関わりたい」という気持ちで教職を志した。振り返ると、子どもたちの成長ぶりには驚かされる。「なんでこんな仕事してるんだろうって思う時もあるけど、卒業まで見ると、続けてもいいかなって気持ちになるんだよね」とおっしゃっていた先輩がいた。私も今まさにその気持ちである。

私には、職場だけではなく大学院で出会った教師仲間がたくさんいる。多面的なアドバイスをくださる大学院の先生方がいる。ときに自分の目の前のことしか見えなくなることがあるが、ふと話を聞くと悩んでいるのは自分だけではないことに勇気をもらう。これからもこの繋がりを大切にしていきたい。

（生徒指導力高度化コース第３期生）